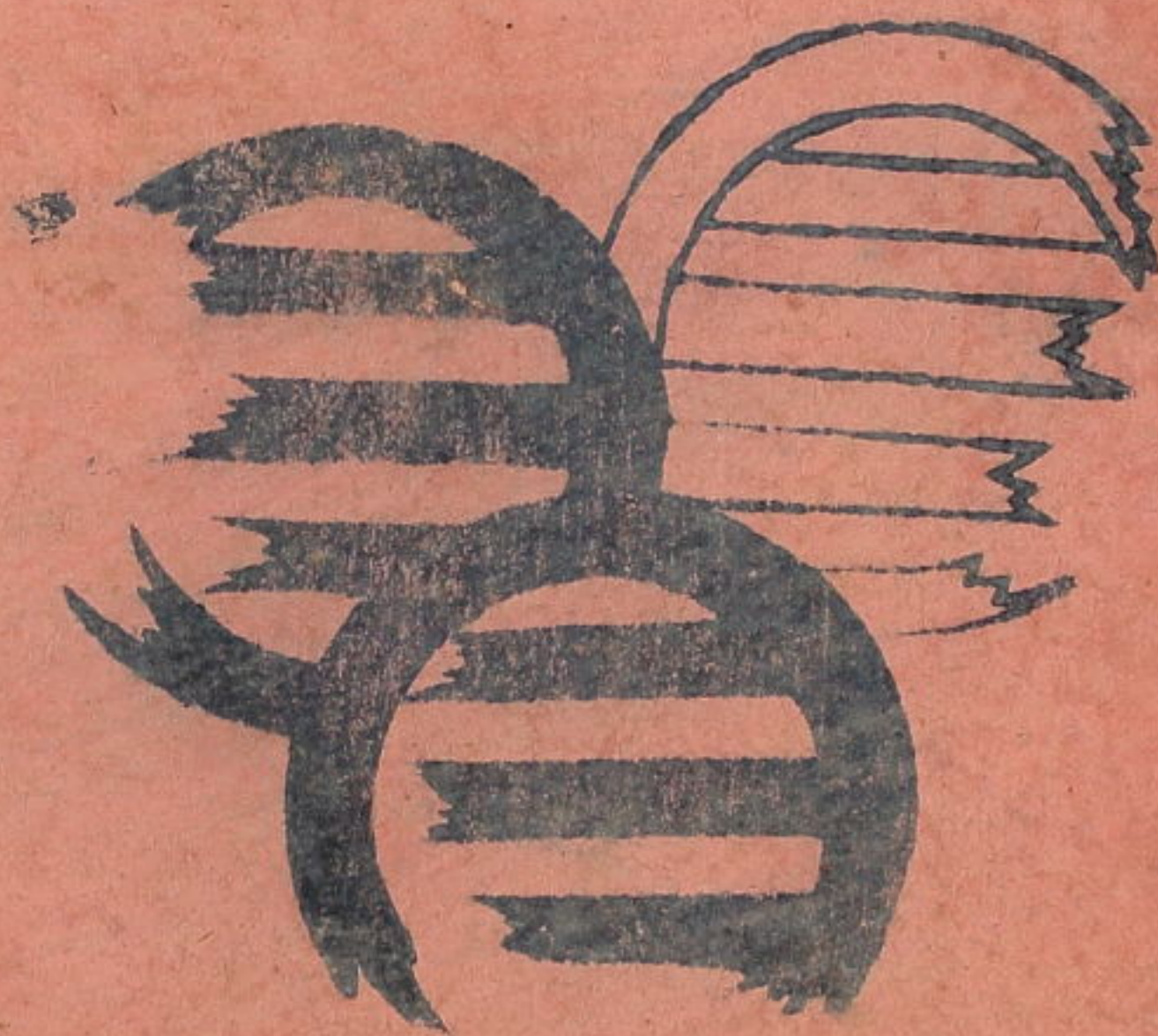


朝夷巡嶋記

第四編

卷二



へ 13

704

17

5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9

明治三十八年
十月九日
庚午

東都

曲亭主人編輯

中輯第二十二

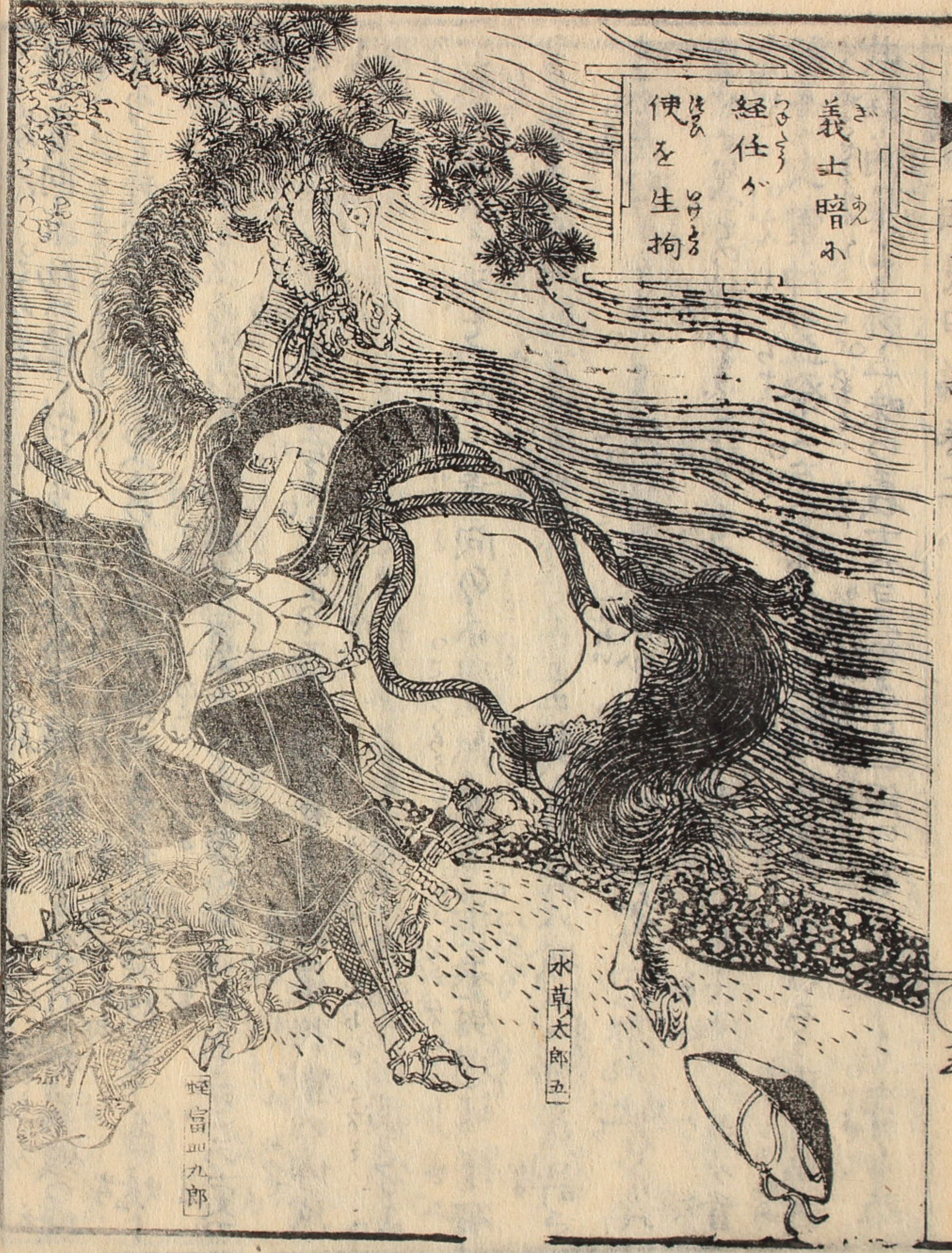
考 城を拔せし義士の功
ま 魔と禳ふ良將乃弓
て 弓
り 弓
や 弓
ゆ 弓

摠大将 光仲ハ廣綱と共に城に入りて、彼此を展檢し、更ニ士卒の部々
 前後の城門を固さを再て城戸四郎武詮、水草太郎五昌之衆居りて
 その軍力を褒賞し、さていつそ御邊ホハ尚弱冠ゆゑ、且その徒三
 十名も過ぎ暴道時夏二隊の賊軍城より遠く推出たり、城中より
 成る賊兵も亦夥るを以て、謀をめぐり、速に衆取と爲、その夏の爲、
 詳に告ぐ。といひ、且て西人辞む。この義ハ、人尋むとせしむ。と
 上人と名ひゆひつれど、嚮ふ夏のいそがしき、且て黙止ゆひ、抑前月上旬

賊將猛虎時夏亦小圓山の館を攻破されしと吉見冠者も擒ふ
 せられ主ゆゑ信丈莊司はさへ某亦父兄なる。水草十郎昌甫城
 戸三郎守詮は神井鬼六猛虎が為に戦ひて死す。刺さるる。其亦母嫂鳴江堀竹も亦蘇塗暴道木と血戦し、途に命を損
 せし。姫と人との賊に捉はる。されば義を重し。恥を知る家臣亦
 大に戦ひて戦死し。磐井玉造の両郡の墓を賊に奪はる。この
 時某亦百餘騎の兵と共に遠く正方寺の枝城を守りてゐる。其
 竟に君父の先途亦あらず。圓山の館の没落。その夜半小ゆいへ程は
 難兵亦々々々落亡し。残るは僅に二十名必死と云ひ決り。其時
 寡兵を以て勝誇る。賊軍は掛向で卵を以て石を壓し。異なり。時
 侯賊と戦ひて君父の讐を復さんめ。云々。其時其の枝城と

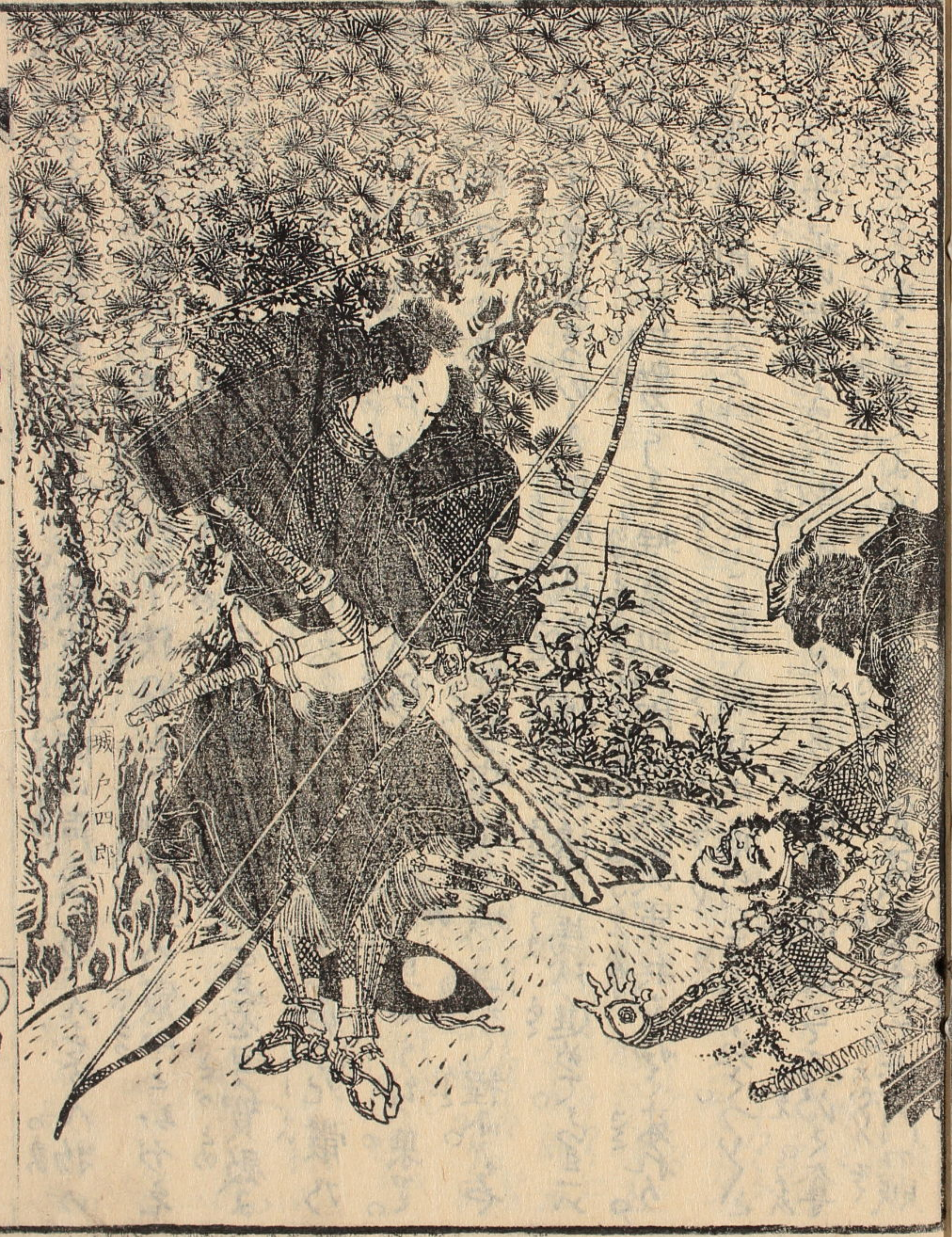
距れ離散し。其の近郷小跡を埋め。其の平泉の形勢を張ふ。
 義邦ぬと笹姫も獵場の雉の羽と傷も猶存命をとり。其時
 其く其く其く。いづで賊柵小潜へ。救ひをせよ。其時其の賊も
 亦用心日夜隙をみ。堀は高く。斬は深し。天飛ぶ鳥亦あらず。其
 身をうち歎く。折しと云ふ。録倉より云々。其の両大將も其の経仕誅伐の
 為に既下向のやえ有り。數百の軍兵陸續し。其の當國小う入
 する。六角半山は其の風聞定まり。其の御陣へ推参して巨細を
 宿志を告ぐ。先鋒に加。其の日来の鬱憤を散さん。其の志を
 功も其の。豫る名を其の。其の間者亦あらず。其の疑はる。其の甲斐
 あり。其の賊兵一人あり。其の戦ひ。其の首引提。其を見参の家裏より。其
 志を遂ん。其の志を遂ん。其の同志の徒。其の謀。其の合。其の合。其の合。

義士暗小
経任か
使を生拘



水草太郎五

怪富四九郎



城戸四郎

陣へ来るもさる賞美あふむ。彼安良閑の吉ふやあらん。人物の
 音幽小笑也。ちやふ賊軍敗北せし。飲ひし。合戦の最中とおぞえ
 う。所詮如此。この謀成りて。鎮守府の城を攻落し。こまを賀賀殿
 献らば。豈にや。と密語。バ衆皆。あふ。と。あふ。て。死骸乃
 物の具を剥とれば。城戸四郎へ。こま。四郎。が。馬。ふ。ち。乗。り。
 水草太郎五ホ。九人。へ。難兵。又。紛。して。鎮守府の城。は。行く。程。ふ。や。
 黄昏。ゆ。そ。る。ふ。多。か。く。四郎武詮。へ。城門の邊。馬。進。めて。ふ。ま。い。
 平泉。より。當城の加勢。う。と。蛭富。九郎。仰。て。受。軍。兵。を。お。く。本。れ。り。
 こ。く。城門を開。え。り。と。呼。び。あ。ふ。と。答。へ。賊。兵。は。角。門。を。半。歩。を。つ。り。と。
 透。り。え。り。平泉の加勢。あ。ふ。契。あ。ふ。ん。見。せ。あ。ふ。とい。ふ。武詮。を。ろ。ろ。奪。
 取。る。契。を。と。り。あ。ふ。昌。之。は。遮。与。ふ。る。昌。之。こ。ま。受。う。て。守。門。の。賊。

兵小示せし。但。且。し。城門の内より。い。ざ。入。り。多。と。あ。う。け。り。門。扉。を。左。右。ふ。開。く。
 昌。之。武詮。へ。下。馬。を。せ。せ。昌。之。は。共。侶。ふ。一。人。も。遺。さ。ず。衝。と。入。り。城門の
 内。小。聚。合。さ。る。衆。賊。を。矢。度。一。砍。伏。せ。ば。あ。ふ。い。ふ。小。と。駭。騒。を。あ。ふ。八。方。へ
 難。倒。し。異。口。同。音。ふ。ま。と。り。立。信。夫。社。司。元。晴。が。股。肱。腹。心。と。呼。び。
 う。城戸。三。郎。守。詮。が。弟。四。郎。武詮。水。草。十。郎。昌。甫。が。一。子。太。郎。五。
 昌。之。君。父。の。怒。を。報。ん。為。小。追。伐。の。大。將。賀。賀。殿。の。先。鋒。は。参。加。り。同。
 志。の。義。士。と。謀。合。し。と。や。當。城。を。乗。取。り。命。惜。く。降。参。せ。り。と。
 呼。り。ろ。名。告。り。て。縦。横。を。尋。小。殺。奔。ま。ふ。さ。う。ね。ど。小。龍。蛇。茂。林。の
 う。小。兵。火。獲。り。矢。叫。鯨。波。漸。こ。よ。近。づ。れ。賊。軍。敗。北。の。兆。え。ん。え。り。と。
 逃。足。踏。る。城。中。の。賊。兵。へ。某。亦。小。不。意。伏。撃。を。し。防。死。戦。へ。ん。と。
 ま。る。の。う。と。蟬。子。を。散。と。く。八。方。へ。逃。走。る。を。此。は。追。詰。彼。を。砍。伏。せ。

只草葉を刈るごとく。四五十人を撃留く。生拘八人及び一々残る
奴原。疾風負つても。堀を踰る。囚うて。斬る。落石は。碎れ。脱る。め。稀
る。れ。躬方。一個。も。傷損。多く。忽。地。城。を。乗。取。り。寄。る。の。入。来。と。俟
不。ふ。果。く。時。夏。暴。道。の。軍。敗。と。く。そ。が。落。武。者。二。十。騎。を。つ。て。
甲。夜。に。城。門。の。邊。に。あ。つ。た。と。夜。陰。な。れ。ば。お。も。移。る。口。前。と。射。り。て
走。り。後。の。使。け。彼。落。武。者。の。賊。の。大。將。鶴。東。二。暴。道。太。郎。時。夏
る。と。し。と。を。知。ら。ざ。く。撃。留。さ。る。と。送。憾。ゆ。と。武。詮。と。れ。を。物。さ。れ。
昌。之。句。を。続。け。送。代。は。演。説。と。光。仲。熟。う。ち。や。め。く。吁
智。る。う。ち。の。邊。亦。と。齡。る。は。少。く。忠。孝。の。心。い。と。う。く。不。思。議。の。計
畧。と。め。づ。く。と。輒。く。城。を。攻。落。せ。し。第。一。番。の。軍。功。と。す。こ。れ。下。野。は
在。り。と。た。吉。見。尉。者。と。刎。頸。の。友。と。う。の。侍。人。も。や。め。ん。平。泉。の。柵。を

攻。め。く。尉。者。と。筐。姫。を。救。ひ。と。と。日。を。俟。て。俟。べ。の。い。く。忠。勤。と
勳。ま。し。聊。當。坐。の。賞。あ。り。と。く。鞍。置。う。名。馬。二。匹。を。牽。せ。武。詮。日
之。亦。小。是。成。與。八。人。の。義。士。中。を。大。刀。物。具。あ。り。と。く。祿。を。取。せ。と。が
皆。拜。舞。し。に。け。り。こ。の。見。聞。く。士。卒。亦。は。その。計。畧。を。感。嘆。し。且
その。功。名。を。美。し。め。い。う。志。を。勵。し。け。り。と。く。と。る。程。小。春。の。夜。あ。ま。と。バ
短。く。東。雲。を。明。く。光。仲。の。廣。綱。は。告。ぐ。城。中。の。倉。廩。と。ひ。う。く。
錢。財。卷。絹。の。類。を。功。あ。る。士。卒。小。配。分。し。又。賊。の。貯。る。兵。糧。を。過。半
當。郡。あ。る。百。姓。に。頒。取。し。と。く。東。賊。乱。の。窮。乏。を。賑。し。法。度。と。略
あ。く。軍。令。を。正。し。疾。員。と。勳。で。戰。歿。せ。し。雜。兵。の。屍。を。求。め。て。埋。葬。せ
し。と。く。慈。善。と。宗。と。く。賞。罰。私。あ。り。と。く。士。卒。僉。然。ひ。く。勇。氣。日
来。十。倍。せ。り。か。く。その。夜。さ。り。海。老。尾。加。世。凡。十。個。の。雜。兵。を。お。て。厨。川

時夏の勇あり。鎮守府より奴原を襲み、田んを疑ひ、而將の多く
軍議を凝し、多く勝軍を告ぐ。と答遣し、騷々氣色あり。り
ふ次の日、又厨川の柵より。經任が偽將、跣大吠、又陰行とのみ、飛
馬の使をり、本柵數軒の兵糧庫を、火燃ゆ。昨日焼亡し、
告ぐ。經任、やう眉を顰め、厨川へ、根城より、輒く人の往
返を許さず。敵、小間諜者あり、と、入ると難く、今彼処より
兵糧庫故より、焼亡せし、窮方、小反忠のめ、ある、欽也、亦、
へ、と疾、この、暴道、は、報知し、夏の、あ、る、
賊將、姪富血九郎、といふ、鎮守府へ、遣し、ける、是、
心、竟、小輒、と、服心の、もの、小、さ、竊、小眼、を、
る、神井鬼六、猛虎、鐵指、矢藤五重、連珍浦五十六、方相、
衆賊、送、小心を、お、と、安、と、ど、ひ、
え、と、比、小蘇塗、鶴東二、暴道、刀野太郎、時夏、
と、數、个、所、浅、を、負、る、平泉の、柵、
天藤、六、就、敗軍の、
臥房、を、
件、の、二、賊、
寡兵、
せん、
へ、
某、
守、
時夏、
敵、
某、
守、
時夏、
敵、

衆賊送、小心を、お、と、安、と、ど、ひ、
え、と、比、小蘇塗、鶴東二、暴道、刀野太郎、時夏、
と、數、个、所、浅、を、負、る、平泉の、柵、
天藤、六、就、敗軍の、
臥房、を、
件、の、二、賊、
寡兵、
せん、
へ、
某、
守、
時夏、
敵、
某、
守、
時夏、
敵、

い。龍蛇茂林は埋伏を敵の追逼する及ぶ急に起る。一揆を謀
 合せて撃つ。さうして度々あつて。その内応のゆゑに敵を伏兵
 あり。茂林は火を放ちけし。其時方角に
 うち負て四百餘騎の軍兵は火を被りて。其時方角に
 方の園を殺被り鎮守府の城に入ると。誰か信夫
 莊司が残黨の府城を追落され。敵入る。寄著に
 残兵のみ。時夏某終小二人追ふ。敵を散す。あつて
 急を起る。時夏は怒れ。不慮の敗軍。恨は堪む。その
 罪萬死に當ると。願ふ他日軍功を。外口を贖ひ。恩
 免あふ。再生の望。あつて。勸解し。経任これを生
 め。あつて。勃然と。声を立て。立か。暴道。汝の城を領する。その

軍令行ふ。副將時夏は怒れ。其れを執居る。其れを敵と攻め
 その謀は。陥ら。縣の兵を亡く。驛城を攻落す。何の面目ありて
 逃く。来る。又時夏は罪を重く。汝の副將あり。我意は。終
 めて。叱る。戦んと欲し。已を過る。人を諍る。寔は。嗚呼の白物あり。
 あら。必死。敵の内応。今。今。今。あつて。小厨
 川。兵糧の故。あつて。焼く。亦。這奴が所行。大床の
 下。引居る。刑罪。この熱腸を。冷。て。敵の
 刀を引提ぐ。立んと。鬼六猛虎。進め。隔て。推。め
 時夏は。怒。尤。輕。あつて。わん。怒。然。あつて。渠の。敵。内
 應。せ。阿。容。と。逃。あつて。其。貳。あつて。脱。
 の城。入。敵。勸。賞。を。乞。あつて。其。貳。あつて。脱。

死路ハあねど前年の功ハ顧て且一命を助る。他日大功あえん。今いまの罪を贖せり。是莫大の恩澤。人敵を境に置る。躬方の大将と殺さる不吉。免させり。と辞せり。諫めけり。浩如小鎮守府の城を攻落さる。終小必死を脱る。賊十人許。大床の下より来る。城戸四郎武詮。計らる。その夜の度。為体を明。地は報。経任。怒小勝。多。哮狂。鬼六。矢藤五。小目を注。矢藤五。亦辞を竭。暴道。賠話。鬼六ハ復時。夏ガ為小勸解。共侶小諫。経任ハ漸狂。疵。上小礮と坐。霎時疾視。息。彼。此。衆人の視。夏奴ハ雜兵の中へ追降。水代。風爐を焼。暴道ハ宿所小退。小赦。奴原。人の諫。黙止。衆人の視。夏奴ハ雜兵の中へ追降。水代。風爐を焼。暴道ハ宿所小退。

信と慎とをり。嚴小命。拵と件の西賊を追退け。憤小。けん俄頃。出陣の部。府城を攻。議。程小。鬼六。矢藤五。十五。六。齊一。これ。諫。敵ハ初度の戦。十二分。新隊も。加。銳氣。且。當。只。其。懈。を。俟。攻撃。一。城。を。拔。今。攻。尙。早。と。其。理。成。速。ハ。經。任。有。理。と。思。久。敵。の。虚。実。を。撈。間。諜。者。を。鎮。守。府。へ。遣。又。珍。浦。五。十。五。六。を。三百騎。將。泉。川。の。小。備。を。敵。を。事。告。程小。一日。鎮。守。府。へ。遣。間。諜。者。走。り。光。仲。ハ。又。本。柵。と。攻。新。隊。夥。加。其。勢。小。二。倍。せ。り。これ。光。仲。ハ。又。本。柵。と。攻。欲。と。御。用。心。と。告。又。其。次。の。日。ハ。五。十。五。六。が。使。泉。川。馬。小。鞍。走。光。仲。既。小。一。千。餘。騎。を。引。泉。川。を。ち。渉。水。を。背。め。備。

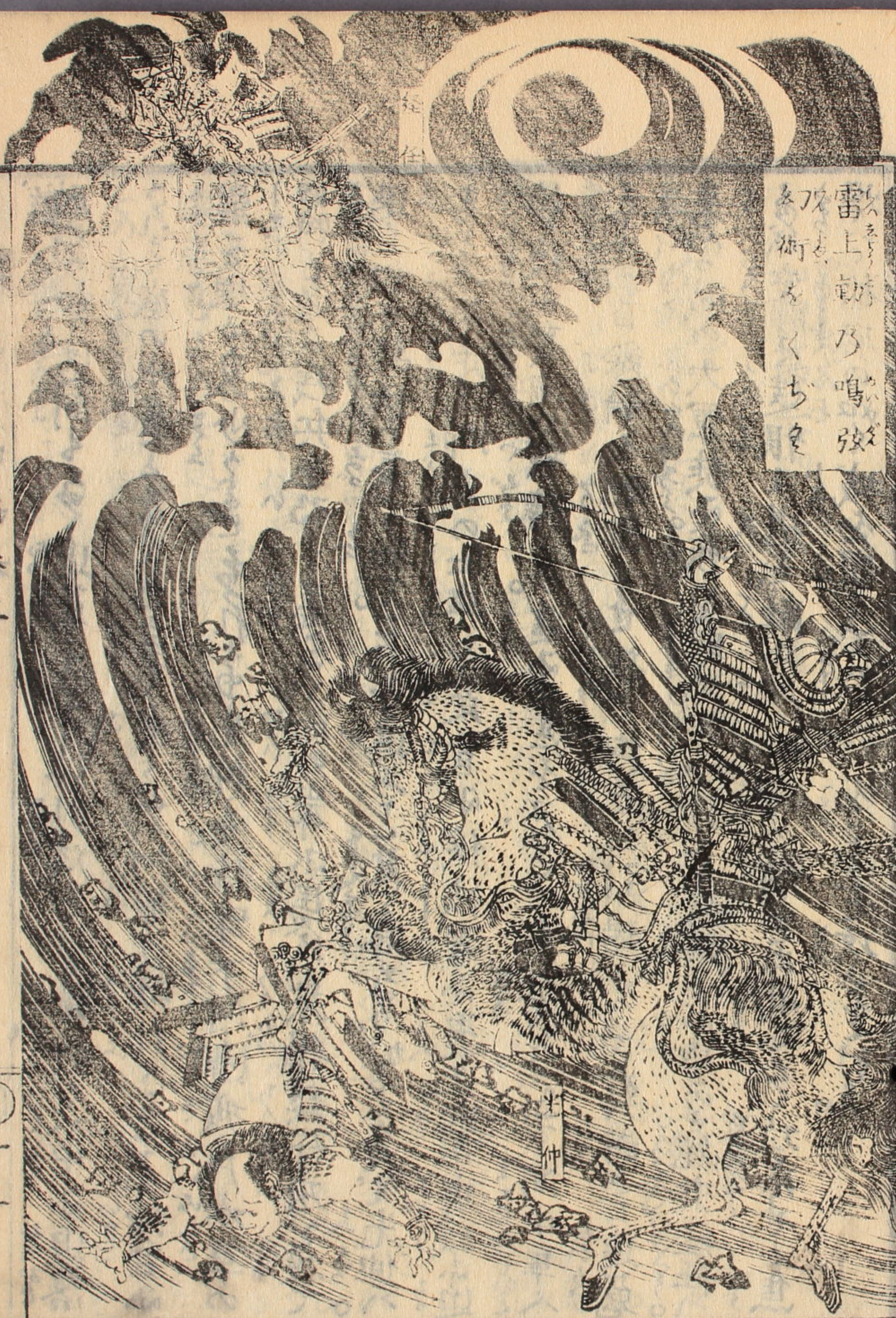
嘯と撃て、鬼と云ふ光仲、士率を進め、陽は開れ、陰は閉、諸葛八陣、李靖が五法秘術を盡し、挑戦、矢叫の声、天を翳め、馬蹄の音へ地を動し、撃つ、撃つ、追ひ返し、いづれ隙へあつり、けや、當下、光仲、毫れち揮て、賊を大軍ありといふと、原是、鳥合の奴原あり。御方へ背、大河あり、退くと云ふ、水小溺れ、進めくと下知と云ふ、士率、よく勇を奮ふ、疲員と推除、死骸を踏、踰千騎が一騎、小をせむ。あををせむと、攻立ま、経任が千八百騎、その鋒は辟易し、あつて、用、棄く、小まん城、戸水草、佐味下河邊の四勇士、ホ驚破、賊軍ハ崩立、り、今、經任を撃捕、ま、何の時を期と云ふと、呼つ、馳ち、え、千変萬化と戦へ、賊軍のしく、乱と立、撃つ、め、少く、惣敗軍と云ふ、小、賊首、經任、此も驕が、鞍壺、小突立、あ、今、さ、劍を額、小翳、一、只

呪文を唱ふ怪しむ。一朵の魔雲陰となりて経任が背のくまより立
 中りたる蒼天ふ布満々四面晦暎なりて咫尺を辨む風又颯となき。
 来く沙を飛一樹を倒一電向くる急雷の鳴るを凄しく耳を貫さ
 り光射する寄もの士卒悍しとて進んとす小進れど退んと
 けふ小前後小迷ふ。これふあはむ忙然する前面より珍浦五十六
 左右より鬼六矢藤五衆賊を進め射くる箭ハ電光よりある母
 驚く経任一軍も亦十字小蒐ちたりとて光仲を拘ふせよと呼ぶ
 声高く高きとも敵何処にあらずとてぬらぬ寄るへこそ騒死なれて
 壁バ宿鳥の錨る如く雑兵夥敷なる皆脱ぎんと打擲せり。そのと見
 光仲声をあり立いのひろみ人この挙動も賊は幻術あるかの豫て
 ようやく所あらざるや只光仲が殿に跟く圍を出すと諭さんとの目も

陣中不携ふる雷上動の矢弓を取る所なり。うち念ひて馬上より
 墓目の射法弓強をこゝへうち鳴せし現名弓の徳意を倏忽雲
 散風風と舊の白晝ふるまふけり。経任へて術を折れこれなり。
 撓まど頻小衆賊を駈立く。不光仲弘駈人とき是のまゝで
 鬼六矢藤五五十六本の三賊將四方八面より推ち巻く。
 横矢背箭小射くけき寄るハ備を立る小隙
 う武詮昌之ハ賊の矢面より立塞りてを
 先途と防戦ひ高利高吉ハ一方の
 困を突破りて大將を捉ひて
 且戦ひ且走る泉
 川をうち凌ぐ



雷上動乃鳴弦
 乃術をくちき



賊の大軍遠間もろく追蒐する。されば引後する難兵ハ水中ハ追落
 され底の水屑となるもの多く。然るに河原又破仆さる。沙石ハ
 骸を埋るもの少くも。あれも光仲ハ佐味下河邊城戸水草の
 四將と共に残兵をおく。恙なく向の岸ハ馬込衆揚鎮守府と援て
 退く。経任ハ長く駈てこれを追ふ。甚急なり。かやられた光仲ハ
 志どろろ走る。御方の士卒を是首ハ侯彼首ハ聚る。既ハ府城ハ迫
 づく。程ハ廣綱ハ城樓より遙ハこゑを召さく。驚れ。中軍人
 多く。二百餘騎を配出させ援へ。御方と引揚る。されば群が追蒐
 来る。賊の大軍徒ハ城を助て。跟ハ入る。悔ハ。罵る。就中経任ハ
 多。空しく。遠恨ハ堪む。敵ハ臆。神の離。ぬ。間ハ。攻落せ。焦
 燥。稲麻の如く城を囲て。昼夜を日をも攻る。ける。

中輯第三十四

邪を祛る妙藥方
 類と賊ハ大奸計

泉川の敗軍ハ佐味下河邊城戸水草の諸將ハ。さ。難兵ハ至る
 ち。肩。負。稀。あれ。も。み。光仲廣綱の恩を感。義と重。ド。く。
 聊も疲勞を告ぐ。城中五百の健兵ハ。も。ハ。の。持口を。受。て。防
 戦ハ。の。の。れ。賊の大軍。蟻の如く。塹を。遠。堀。ハ。著。て。攻。撃。こ
 間。あ。げ。も。城。中。弱。る。氣。色。あ。く。術。を。か。く。禦。ぐ。と。十。日。あ。り。ふ。及。び
 一。ハ。経。任。る。や。倦。勞。ま。く。この城。急。ハ。落。べ。く。も。且。く。兵。を。退。け。く。
 遠。春。雨。く。日。を。送。る。城。中。竟。ハ。兵。糧。竭。ん。然。る。に。野。心。の。の。い。で。あ。ん
 その。と。急。ハ。拉。ハ。盡。ハ。あ。つ。べ。れ。ん。さ。く。軀。く。旨。を。付。く。攻。口。と。釋
 退。け。城。を。さ。る。と。數。町。う。く。城。中。の。通。路。を。断。塞。ハ。膽。澤。の。杜。の。南

泉の里のころこまで。野陣營を結構く遠攻めぞあつた。あれ
が城の中へ防禦よく間断る。光仲へ廣綱とかがくふらふら巡りく。
と負を勤り忘るの成。泉川より懸る。士卒のその妻その子を
憐れ。懇切に扶持し。さうして光仲へいぬ。日の戦ひ。聊矢
湯谷負さう。日数経る。腫痛。破傷風。さうして。遂に帳
中。ぞ。臥たりける。士卒へこれ。小警。憂ひ。おのく。頸を病。大將の
本復を。禱る。あつた。さうして。程。小賊の陣。一夕。神井鬼六猛虎
夜行。一個の行客を捕捕。馳。賊卒。これ。牽。さうして。
經任。小告。て。い。某。今夜。夜行。怪。行客。と。生拘。その為
体。全。遠方。より。あつた。め。小。あ。必。城中。より。潜。さうして。め。つ。れ。バ
その。来歴。を。責問。小。彼。もの。遂。小。陳。云。これ。廣綱。が。家臣。と。海老

尾加世九と呼。め。城。より。潜。さうして。泉川。より。戦。ひ。大將。光仲
矢傷。破傷風。さうして。既。小。是。危。窮。の。症。廣綱。より。成
憂。程。小。或。人。の。い。この。陸奥。の。國府。より。云。云。の。良醫。あり。さうして。も
あ。迎。さうして。その。療治。小。任。さうして。平。愈。速。さうして。い。さうして。廣綱。これ。小
命。と。國府。の。良醫。を。召。んと。欲。さうして。も。運。微。見。社。これ。又。の
あ。小。及。ぶ。と。い。計。い。れ。と。問。れ。經。任。頭。を。傾。け。莞。然。と。笑。く。
うち。点。頭。さうして。め。の。を。生。拘。さうして。さ。お。の。さうして。処。分。あり。さうして。牽。居。と
い。さうして。端。近。う。立。さうして。床。几。に。尻。を。掛。る。程。小。鬼。六。へ。加。世。九。と。貴。子。の
下。小。推。居。さうして。當。下。經。任。へ。左。右。小。命。と。加。世。九。が。縛。を。釋。放。さ。せ。貴。子
の上。は。召。の。い。夷。訛。の。言。語。を。順。げ。廣綱。が。家。臣。さうして。海。老。尾。加。世。九
と。汝。が。飲。汝。の。光。仲。が。為。小。城。と。さうして。國。府。小。良。醫。を。徵。る。と。い。さうして。が。

するありや。いふ。と問。加世九答。然る。といふ。経任。左右。とん。りて。
 人の賓客。は物。取。せ。よ。と。い。ふ。が。豫。く。を。ぬ。け。ん。個。
 賊。率。奥。より。出。く。沙。金。を。折。敷。小。積。う。成。そ。は。う。小。晋。く。加。世。
 九。は。果。果。く。い。と。い。ふ。の。と。あ。げ。ぬ。と。ん。か。う。ん。引。も。ぬ。の。せ。ま。と。巡。り。て。
 け。い。ば。經。任。呵。と。と。う。ち。笑。ひ。加。世。九。そ。の。が。寸。志。を。疑。む。と。受。納。よ。
 汝。人。態。鳴。呼。け。あ。き。と。も。大。剛。の。の。あ。き。と。も。大。軍。の。匪。戎。把。
 志。く。國。府。へ。赴。く。と。成。せん。や。その。忠。勇。を。感。ず。あ。ま。り。これ。今。汝。を。殺。す。小。
 忍。び。む。心。を。改。め。く。これ。小。仕。は。富。貴。歡。樂。自。在。あ。う。ん。と。い。れ。く。加。世。
 九。頭。を。拊。某。既。は。生。拘。く。屠。所。の。羊。釜。中。の。魚。あり。再。生。下。と。い。
 多。く。ご。う。一。命。を。助。け。て。夥。の。祿。を。賜。て。賸。召。使。ん。と。仰。ま。る。は。是。
 塞。翁。が。馬。は。む。ろ。く。禍。変。く。福。ふ。る。と。う。軟。び。と。ま。ふ。の。の。る。と。

席を避く肘を張り。空を仰ぎ目をまぶせし但癩蝦蟇の這み如く。
 敬く赤心と示せし。衆賊あつく笑ひを忍びく。嗚呼の者かと。
 ちのひけり。かく経任を。加世丸を陣中小留め。毎日小美酒佳穀を。
 りて飽やふ。款待させ。今ハオヤ。これ比まうんと。思ひ。一日左右の。
 賊兵を退け。獨加世丸を側親く招れ。を汝ハ廣綱ハ使れ。日と。
 今日まふ仕ると。孰く樂し。死明。地ハ意中を。知せ。より。城中へ歸去。
 らんと。まふ還り遣ま。汝が。と。何と。問ま。加世丸眼を睜。て。
 蔬菜。多く食ふ。成。然。を捕れ。この。御陣へ。系。し。
 日。より。昏。ハ。美食。ハ。飽。夜。ハ。温。臥。王公貴人の榮華。ふ。む。此。の。
 樂を。今。さ。棄。く。翌。の。日。も。憑。が。た。府城へ。ま。ふ。還。る。然。鴻恩を。

受あつた。その報ひなる由から用ひるも、そのあふ二る死命も惜と
せ、只報恩をあの外の外に他念はあつたといふと、回答をされば、經任は
あつた。よけい、うち領にさあつた。いふ。もう、何偽る、これ、
一計あり。その計畧は別議あり。むむ。が陣中、小悪別當、訥愿と
父、塞修驗あり。渠を年来、いふ。は、臂力強く、膽太。父、彼
訥愿を伴ふ。今夜、府城へ立ち、國府より、某甲といふ名醫と
迎來する。と偽り、渠と光仲が病床へ進め、その訥愿は、光仲が
脈を診る。中、あつた。推伏せ、刺殺さん。汝、城に火を放て。事乃
紛ふ。城門を開け、然るに、その煙の度、成、短兵急、推寄て
立地。城と落さん。事成らば、汝が功、四首領の次、小居ら。賞禄、
乞ふ。依る。え、この行んや。問へ。加世、九一議、あつた。を

大役、小侍、とも又、か、死、夏、あつた。某原、俳優人、廣綱、乃
譜、草、あつた。且、その恩義、浅く、有、繫、小故、主の、と、あつた。を、
あつた。殺せ、と、あつた。聊、難、義、の、助、あつた。と、光仲、主君、あつた。
それ、あつた。彼人、六月、來、いふ。死、怒、あり。あつた。廣綱、乃、息女
且、見、姫、小某、懸想、し、け、いふ。ま、本意、を、遂、む、光仲、小妻、され
胸、小、焼、火、の、浅間山、富士の、煙の、雲、と、あつた。雨、と、あつた。人の、樂、い、と、あつた。
あつた。及、ぶ、ぬ、恋、と、身、を、責、め、あつた。絶、て、と、怒、あつた。彼人の、為、小、城、と、あつた。
國府、小良、醫、代、徴、と、分、付、と、あつた。主命、を、い、と、朽、と、あつた。ひ、つ、と、活、き、を
殺、と、今、の、御、誼、に、常言、いふ。疫、鬼、と、雙、を、復、と、類、小、と、願、て、と、難、き
幸、あつた。左、右、あつた。刺客、の、道、あつた。つ、と、あつた。そ、あつた。へ、あつた。
安、れ、と、意、趣、と、告、て、兼、引、と、經、任、大、と、小、欽、と、訥、愿、と、あつた。

立まへ阿と云く。鳥髪（うけがみ）の賊僧（ぞくそう）裡より垂（たれ）る幕（まく）を掲（たか）ぐ。傀儡（くわい）の如（ごと）く見
 れぬ。加世九（かせう）もやえん。まば齡（とし）ハ四十許（よそ）あるべし。眼圓（まなこ）小色（こしき）黒く厚
 累（かさね）の草（くさ）乃身甲（みんが）。朽葉色（くはせき）の大袖（おほそで）小綾（せうせん）の銷金（せうきん）の輪（りん）袈裟（けさ）袈裟（けさ）掛
 白括（はく）の帶（おび）或前（まへ）小締（こぢ）て朱鞋（しゆげ）の大刀（おほや）を跨（また）る。一癖（ひとくせ）あふれ。面魂（めんこん）問（と）ねど
 某（たれ）と云れり。當下（たうげ）経任（けいにん）ハ訥原（だつげん）戎傷（えいがう）小付（せうづ）せ。加世九（かせう）こま今（いま）公
 け。惡別（あくべつ）當訥愿（たうだん）あり。けふより。狗（いぬ）と鷹（たか）あふ。狩場（かりば）小赴（せうし）く
 る。公限（こうげん）多く謀（はかり）合せ。彼密策（ひみつさく）を豫（よ）て。この山伏（さんぶく）ハ示（し）し
 くる。少小（せうせう）兩人（にりう）と云。或（ある）送（おく）小名（せうな）出（で）り。向後（きやうご）戎契（えいけい）。ほく。笑坪（えうへい）の
 會（かい）ふ。あや。程（ほど）ふ。その日も既（すで）小暮（こ）。訥愿（だつげん）ハ國府（こくぷ）より
 来（き）れる。醫師（いし）のむく打扮（うちばん）。假（かり）ハ行装（ぎやうさう）を整（とと）め。鍼囊（しんなん）を懷（いだ）ふ。藥
 籠（ろう）を腰（こし）め。加世九（かせう）と共侶（きよりよ）小鎮守（こちんしう）府（ふ）の城（しろ）ハ赴（おもむ）け。経任（けいにん）ハ鬼六（きりく）

鎮守府の
 城ハ加世九
 訥愿を伴ふ



矢藤五十五六の賊將小件の謀を説示し。俄頃小城攻の分配して。馬少鞍を置せ入る兵糧を食ひ。城中火の度ふんハ瞬間に推寄る攻落せしと徇うけり。かく経任ハもや時刻少あや一鐵盾矢藤五小賊率五百名を授て陣營を成らせ。身ハ鬼六五十五六の偽將と共に千二百騎と將。徐小府城に近著。加世九が暗號を俟たふ城の正門のふ當りて猛火忽然と燃上り。城兵罵り騒ぐ声いと遠くせえ。驚破暗號を違へると衆賊と進め関を度し。真先馬を馳。東の城門小攻蒐ふ内。扉を開く。のめ。経任もあふん。欣然と此も擬議せ。鬼六五十五六共侶小會釋も。騎へ。その隊の賊軍七八百。ふ分後と。いへ。と。敵ハ一騎もな。と。原來謀小陷さ。退ら。と。散動め。

程小雷鼓忽然と鳴。響く。耳を貫れ左隊の。間中守直右隊の。下河邊高吉二隊の軍兵齊一起。射。前ハ強の。前ふ立。賊兵を矢度。七八騎射。落せ。賊軍の。驚死靡れ。戦んと。擬勢多。進退殆度を失ふ。前面。加世九ハ惡別當。訥愿が首を刀尖小串。一隊の兵を。あ。と。出逆賊経任と。え。賀殿の密策を。の。夜賊將鬼六小生拘。是苦肉の計略。遂小汝を計課せ。將。訥愿ハ既小刑罰せ。虎狼も慾。迷。色烈火の如く馬上小戈と。伸。加世九を刺。退。と。打。揮。

ある衆賊馬前小立駆けへ一歩も進むべくもあらず左右かく備え立んとし馬屯陝うしく今さふ指揮まづも憑切る鬼六五十五六の賊將之間中下河邊の両軍と戦んと欲まじきこと崩れ出んとする賊率小誘まじきこと斜形の隅小推著らるゝふと術あらず路を開けと叫ぶの隊兵夥討まじきこと経任を見えりてかくてをひでるかみづね雲を鳴る風を起し事の紛ふ退れぬ又戦へめとけりいふ戈を棄て剣を引抜き口小咒文を唱れば四邊より陰と雲起らんとほろ程小二の城門とさう開せく又賀藏人光仲へ廣綱高利共侶小一隊の軍兵を招き突出一經任を目小けく雷上動の弓をりく並續早ぬを射まけるさふその馬前ある賊兵小紛くと射付されて起らんとせ雲ハ散り吹んく風も起む靈弓の徳再び見え経任が幻術の

行まじき頻り小處の躬方の上を乗越る影を暗し脱き出まじきそが後小跟く鬼六五十五六賊兵おく後れどそ推し推れり轉る幸くして逃れりさふさふ入る後まじき賊兵を夥外面小来く入るとさるものゆりのこま彼むと推あめく突倒さる蹂躪らまじき引く罵駭くそが背も守直高吉軍兵を駈進めく漏さうと撃程小正門の橋のほろゆく撃り賊率亦まじきその隙小経任へ鬼六五十五六と共小四百騎の残兵をおく舊の陣營と投て退く追追く撃んとく先仲さう士卒を引率て城をぬこれ成追鬼又廣綱ハ苗ア守直加世丸とその隊の兵を分部し前後の城門と守らせりこれ又五百騎小將くこの宵陣營を成り鐵指矢藤五重連ハ遙小府城のく成りさふ彼暗號の火滅く矢叫鯨波

のそいとも幽小安え。ぐ初へ内志のものを為損じ。躬方へ城小う籠
ら。戦ひ難義。及ふ。疾極む。失あらん。さ。賊率百餘名を
遺。と。陣門を守らせ。四百餘騎を。馳て府城小
近。程。經任へ。や。四五百騎。鬼六五十六。共
。必死を脱。後方を見え。光仲の大軍潮の盈
。追。甚急あり。か。陣所。退せ。踏駐りて戦ふ
。程。走。只。管。疲。馬。鞭。浩。小
。鐵。新隊の弓。直と備て。て
。引。光。先隊の大將高吉。速。賊。便
。只。緩。下。知。使。走。せ。程。經任へ。鐵
。矢。藤。五。援。大。小。鉄。衆。賊。齊。陣。所。還
。只。緩。下。知。使。走。せ。程。經任へ。鐵
。矢。藤。五。援。大。小。鉄。衆。賊。齊。陣。所。還

備を立んと。程。忽地陣門の背より。猛火。二隊
の軍兵突出。二騎の大將左右。真先。馬。跳。逆賊
。經任。死。多賀殿の武畧。後。甲夜。竊。城を
出。この陣門。近。援の賊兵。出。便
。遺。奴原を。或。生。の。隨。入。か
。小。俟。久。か。の。誰。信。夫。莊。司。の。舊。臣。小。房
。の。あ。と。知。城。戸。四。郎。武。詮。水。草。太。郎。五。昌。之。を。又。と
。受。と。喚。猛。火。の。下。て。鬼。六。五。十六。名。咄。と。嘯。て
。薙。立。突。伏。せ。勇。を。奮。て。攻。め。け。神。出。鬼。没。の。伏。兵。小。經。任。再。ハ。驚
。と。備。を。立。る。小。暇。鬼。六。五。十六。何。れ。矢。藤。五。五。十六。と。共。く。彼
。蹴。と。せ。と。乱。立。る。瘴。と。悍。也。怯。の。も。金。陣。門。より

逃少光仲の先鋒高利高吉士卒を進め追蒐する前後より
さへ挟みいともいへく攻撃もぞ又撃もく少くもあふあふと
経仕と三騎の賊將と力を勦く。稍一方を殺開れ平泉のく逃奔
城戸水草下河邊に達し返せと呼け。齊一こまに追ふ既ふ
まに経仕ハ泉川を落延馬をさへ乗入る。河水忽地左右よ
ううと陸地をゆく小異る。後賊將賊卒も皆この迹を踏程に
輒く川を渡り。治知小追隊の軍兵むくくと走來。早雄の士卒
七八名中の。個一水もた渡り。まに忽然と河水を落あて件
の士卒を流し。當下武詮昌之ハ高吉とも小追蒐する。士卒の
溺る。然るに。流急け。救ふ。由か。河水霎時中絶。是を
経任ハ幻術あると名ふ。左右あふ入る。む向の岸を疾視てあふむ

其如小不行。か。程小光仲ハ佐味高利を先小立し。備を乱さ
士卒を進め。泉川の上まに。まに高吉ハ経任ハ幻術あり。と
兵を溺り。且船もた渡り。賊と走。い。告。俄頃小近邊
ある。竹木と伐。伐を造。あんと。あを。光仲。推禁め窮寇ハ
追ふ。今経任ハ首と獲。天誅。久。久。且く。小
天を明。川を渡。と。と。彼此。散在せる。士卒を。く
集合。揚。螺。吹。せ。け。と。皆。本陣。聚。討
る。首。と。實。檢。入。と。名。ある。賊將の首級。あ。と。此。度。の
軍功。加。世。丸。小。勝。め。か。と。光仲。その。詰。朝。使。を。城。中。へ。遣。し。渠。小
感。状。を。与。へ。け。と。次。の。日。光仲ハ平泉へ寄。せん。と。頃。日。経任。が。退。け
隠。せ。船。數。求。出。と。泉。川。を。う。ち。渡。し。小。彼。此。の。郷。士。野。武。士。小。ま。で。この。の

提軍を傳へて。縁を徵め名簿を呈し。走加るの多きをば又千五百餘騎小あしめ即ち三隊小あしめ平泉へ寄ける小及び光仲諸將と軍議せし。塹を踰堀を毀し急小柵を破るんとせし賊ハ必死と必し決めて一致し禦ぐるべし。あしめ柵を破るといふとも御方も過半傷損せん歟とて軍小勝とも功かし。経任このかの戦ひ小同類哉夥せし陣中あし兵糧乏皆焼亡せしとて平泉あし柵あし物のまじせかゞくもあし且捨籠る賊兵も猶千餘騎ハあしとて曩あし軍敗れて賊小追はる城は龍りけり亦賊と追はる進る柵を攻んと欲せし主とあり客とあり勝負を未然と決めて。只三方より遠巻ふし。犄角の勢ハ成張るべし。かゝる夜ハ鉦鼓を鳴し鯨波を揚るをせし攻せんともろく小せし賊を各夜の防禦小疲勞し憚るものヨリとて勞をせし

死生一儻とて成を失ふ是必然の勢ハこれその虚小乗し攻む一戦小柵を破るべし。且平泉の柵も昔藤原秀衡がうと夫の縄張りく究竟の要害あり。と傳へし果し違はずり軍令小随つて拔蒐するのハ斬らん。かの陣營をとり固め朝掛夜襲の用心せし一人の怠慢ハ千五百騎の命小係し敵と侮るべしと厳小告提つ柵を距ると数町より堅固は陣を布て。且遠攻めをせしこれ又修羅五郎経任ハ三個の賊將と共に。残兵を招く平泉の柵小外龍るおろ曩小留り柵を成す。賊兵五六百名あり加之討漏されし賊卒小五騎十騎は還聚ひ。無慮千餘騎小あしとて負しとて氣を屈せし鬼六五十六矢藤五木の賊將小攻口を固めせし防禦の軍配憚

勞するところなく。鬼六矢藤五又五十六本小攻口と守らせり。身ハ帳臺の下小引籠で彼文字損及夥の美女と聚合り。淫酒乃為小患ひを忘る。歌舞郢曲小夜を曉し。又あつたハ獄舎より。義邦を牽出として。ふは庭前又責鞭せ。逆姫小説勸めく。こまふ随せつと催促も。その他一毫も意小違ふのあふ。立地小破殺。その肉を殺め。人小食せ。こま食ひ。その残忍暴行。古小今小。多うく。あふ。顔を背けり。不題。蘇塗鴉東二暴道ハ暴小敗軍の外。ゆる。閑籠り。ゆる。程小経任漫。敵を侮。軍配を諸將に任して。酒宴遊興夜を日に續く。淫樂との夏。と。傳人。驚人。小就。状を。進め。只。小練。一。経任。と。然。と。暴道を軍略智術小長る。

ち。渠を免。召出。舊の。軍士小。寄。の。兵糧。竭る。紙。で。敵を。計策。を。と。多く。召出。る。屋。と。練。う。わ。と。い。と。あ。さ。暴道を用ひ。と。敵小。克。れ。ぬ。と。く。竟小。諫を容。さ。り。業下某生再説。刀野太郎時夏。ハ。既小。難兵。又。追降。と。水。を。汲。風爐を。焼。と。く。む。の。日。と。送。れ。と。逃。去。らん。め。と。る。と。この。辱。を。忍。ぶ。お。う。う。人。の。と。眼。く。獨。情。の。み。ち。暴道。已。非。を。飾。と。龍蛇。茂。林。の。敗軍。を。こ。が。り。却。ら。小。塗。著。と。され。バ。と。這。奴。と。龍。中。小。蟄。ら。と。も。安。然。と。日。を。送。り。と。浴。架。の。火。燒。鳥。尾。羽。と。濡。と。啼。め。と。啼。と。又。文字。損。奴。も。憎。む。と。と。あ。へ。と。る。と。這。奴。ハ。主。小。許。と。て。と。れ。と。衾。を。累。と。情。話。の。舌。を。引。と。又。と。小。主。と。媚。と。ん。その。後。絶。て。あ。と。

かし。その修羅殿の古く。一旦。こゝろ。ふ。へ。の。成。又。豪。奪。く。返。さ。し。ふ。
ふ。わ。る。う。た。る。の。あ。ま。い。も。噫。児。と。主。の。勝。ど。ぬ。も。あ。れ。か。も。
め。は。文。字。搦。奴。が。薄。情。を。う。ま。い。偷。び。て。も。あ。る。あ。る。べ。い。よ。や。そ。こ。や。せ。
は。る。う。ま。い。と。こ。ま。い。今。か。う。さ。ぬ。う。く。這。奴。が。為。小。水。成。汲。み。毎。日。小。
風。爐。を。焼。く。知。り。や。渠。が。為。小。主。小。勸。解。く。一。言。半。句。の。執。成。を。い。れ。
さ。う。い。ふ。小。そ。や。怨。へ。件。の。兩。人。小。あり。こ。は。文。字。搦。を。殺。さ。る。く。暴。道。
を。殺。さ。る。く。男。子。と。生。れ。一。甲。斐。の。あ。ま。い。と。や。せ。ま。う。か。や。せ。ま。う。と。
獨。ら。う。成。苦。し。め。一。兩。日。と。經。る。程。小。謀。を。う。ま。い。そ。の。詰。朝。文。
字。搦。が。浴。を。る。を。窺。ひ。けり。抑。經。任。は。使。う。婢。女。輩。の。浴。室。を。後。
堂。の。異。小。あ。り。七。間。の。行。廊。二。間。の。浴。盤。日。小。新。ゆ。く。又。日。小。新。ゆ。く。と。
欲。さ。る。美。女。ホ。朝。う。暮。る。ま。で。へ。り。か。つ。て。立。つ。り。浴。せ。る。と。あ。る。と。

め。は。と。文。字。搦。ハ。經。任。が。愛。妾。の。り。や。あ。ま。い。第。一。番。と。定。ら。る。く。渠。が。
浴。せ。る。程。へ。入。る。の。絶。く。あ。る。と。けり。さ。う。う。小。時。夏。ハ。壁。を。隔。て。火。を。
焼。く。の。と。文。字。搦。を。こ。ろ。う。と。第。一。番。入。る。の。の。渠。あり。けり。
と。豫。て。り。知。り。さ。ま。い。こ。の。日。も。文。字。搦。ハ。肘。ち。う。小。召。使。ふ。兩。人。乃。
童。女。小。浴。禪。風。爐。布。内。衣。を。う。う。生。平。の。如。く。あ。る。と。あ。る。と。
浴。を。る。程。は。時。夏。さ。う。と。復。し。知。く。薪。を。添。け。嘆。息。し。痛。い。と。あ。ま。い。
君。の。浴。も。け。の。成。限。さ。う。う。ん。軟。幸。ひ。ゆ。と。恙。さ。る。と。終。る。人。は。計。
ら。る。と。ぬ。小。飽。さ。る。大。事。小。及。ん。と。苟。も。そ。の。と。多。借。老。乃。契。大。
あ。ま。い。さ。う。末。の。松。山。波。の。越。ま。い。主。命。さ。う。い。は。せん。恨。し。と。あ。ま。い。
憎。く。と。多。ぬ。君。が。為。小。の。仇。人。を。告。り。小。主。あ。り。最。上。の。川。は。使。ふ。鶴。と。
已。が。腹。を。肥。さん。と。人。の。為。小。貼。と。捉。る。み。づ。う。誰。と。考。へ。く。噫。小。か。

